



# 社会言語科学会ニュースレター

The Japanese Association of Sociolinguistic Sciences

第 3 号

1999年6月21日 発行：社会言語科学会事務局

〒214-8580 川崎市多摩区東三田 2-1-1 専修大学文学部永瀬研究室

URL <http://www01.u-page.so-net.ne.jp/ra2/jnagase/>

訃報

徳川宗賢・本学会会長御逝去

本学会の会長・徳川宗賢先生には、去る6月6日午後10時23分、心筋梗塞のために逝去されました。御葬儀は6月11日、東京上野の寛永寺にて執り行われました。謹んで哀悼の意を表し、会員各位にお知らせいたします。

徳川先生は、日本語方言研究・日本語学・日本語教育の領域を専門とななり、御本務先の学習院大学で多くの学生・大学院生の指導にあたられるほか、国語審議会委員、国語学会代表理事などの要職をお務めになっていました。

なによりも、私たちの社会言語科学会が昨年発足するに至る過程と、その後順調に活動を展開する過程において、初代会長としての徳川先生の存在とお力とはまことに大きなものでした。

かけがえのないリーダーを突然失ったことに痛恨の思いをいたしつつ、会員各位とともに、先生の御冥福をお祈りしたいと存じます。

以下に、学会理事有志からの追悼文を掲げ、先生に捧げる次第です。

徳川会長を偲んで

永瀬治郎（事務局長）

1999年6月6日に徳川先生が亡くなられましたことはみなさんご承知のことだと思います。僕にはこの事実がいまだに信じられません。心の中にぽっかりと大きな空洞ができる、なにもかも虚しいことに思えてなりません。そして、ご葬儀の翌日にこの文を書かなければなりません。

つらい。ただただつらい。涙がとまらない。なにを書けばいいのか……

徳川先生がこの学会に期待されていたもの

は非常に大きなものでありましたが、創立して1年半しか経っておらず、先生はまだまだ学会として軌道にのっていないと考えておられました。やっと第1エンジンの噴射が終り、軌道に乗せるための第2エンジンを噴射させるときであるという認識をお持ちでした。軌道に乗せるまでは自分はがんばらねばならないと日頃おっしゃっていました。その矢先に、このようなことになってしまいました。いつも先々のことを考え、自分を犠牲にして若い研究者を育て、新しいこの学会の発展を願い、そのために何をしなければならないかを熱心

第4回大会のご案内…p.5～7

「特集・日本語と言語接触」の論文募集のお知らせ…p.9

第5回大会のお知らせと研究発表の募集…p.8

夏のワークショップ'99の予告…p.10

に語っていました。

理事会ではそれぞれの理事の意見に真剣に耳を傾け、ご自身も率直なご意見を発言され、われわれも安心して自由に意見をいっていました。それも、先生が最後には実に巧みに全体をまとめられることを知っていたからです。先生が亡くなられてどんなに大きな存在であったかを実感しています。いま、強力なエンジンを失ったロケットを軌道にのせることはとても難しいように思います。そのために残されたわれわれ会員全員が一丸となってがんばるしかありません。この学会を軌道にのせることが先生のご恩に報いることです。先生、天国からわれわれを応援してください。

合掌

---

#### 井出祥子

社会言語科学会は、「新しい分野の若い研究者がスクスクと育つ場所を」という徳川先生のご意志の下に誕生した。それから1年半、学会がようやく歩き始めた矢先に先生は突然逝ってしまった。先生のご存在は大きかった。それだけに、いまだ茫然自失の状態である。

グローバルな視点で、世の中はどうあるべきか、そのために学会、学界は何をすべきか。大所高所からのお考えを実行に移すべく、渾身の精力を絶って八面六臂のご活躍の最中に先生は倒れられた。

思えば、徳川先生は、私たちに明確な形で遺言を残されている。これから言語研究の課題「ウェルフェア・リングスティック」の構想がそれである。これは、「コミュニケーション行動にかかる学際的研究」(『日本語学 98年9月臨時増刊号：複雑化社会のコミュニケーション』pp. 10-21)と本学会会誌第2号に掲載予定の「WL(ウェルフェア・リングスティック)の出発」の二つのご論文で詳しく知ることができる。いずれも、言語の研究がこれから的人類社会の福祉のためにいかに貢献できるかを問うものである。

先生は、学会運営には細かい心遣いをされていた。第3回大会初日の終了時に、アルバイト学生たちにお礼のおことばとともに「ぼくは早起きだから、明日も早くきてね」と声をかけられた。学会主催者側の者は開始のかなり前から来て準備するもの、ということを優しいお言葉でお教えくださったのだ。懇親会では、ご自分のお酒を「バーとくがわ」でふるまわれた。熊ちゃん模様のエプロンをかけ、大きな笑顔で学会員を笑わせて下さった。それもいまはなつかしい思い出となってしまった。

これから学会は先生の求心力なくしては……という思いもある。しかし、私たちに出来ることは、先生の築かれたものを守り育っていくことである。今はただ、天国の先生にどうか先生ゆっくりお休み下さい。そして、私たちをお見守り下さいと語りかけるのみである。

---

#### 徳川さんのこと

荻野綱男

徳川さんの追悼文を書く羽目になるとは、全く予想外のことだった。

私がはじめて徳川さんにお会いしたのは、学部の学生時代だった。上野善道さんに連れられて国立国語研究所にうかがい、徳川さんにお会いした。そのときは、私がコンピュータを使い始めていた頃で、岩手県零石町で柴田武先生を中心として言語地理学的な調査を行い、その資料をコンピュータで整理しようかと思っていた。上野さんから、すでにコンピュータで言語地図を作製している人がいると聞き、それでは話を聞きに行こうということになってしまったしだいである。

そのころ、私は徳川さんに手紙を出して、コンピュータによる言語地図作製に関する質問をしている。20年以上経ってから、徳川さんに「あなたからもらった手紙を保存している」と聞いてびっくりしたが、その後、その手紙のコピーを送ってもらって、若い自分

に再会したようで、奇妙な感じを覚えたことを思い出す。筆跡は確かに自分のものであった。徳川さんは、何の縁もない一学生からの手紙に返事をくださり、またそれをずっと保存しておいてくださったわけである。

このエピソードは、徳川さんの一面を物語っていると思う。論文などを徳川さんに送ると、いつもコメントをくださった。たいていはハガキだった。あるとき徳川さんに質問したところ、差出人のゴム印を押したハガキのたばを鞄に入れて持ち歩いていて、ちょっとした時間の隙間を見つけてはサラサラと書いて、ポストに投函するのだとおっしゃっていた。大変な努力を要すると思うが、そのようなハガキによるコメントは、徳川さんのまわりの多くの人になさっていたようで、まったく驚きである。

徳川さんのあの筆跡がもう見られないのかと思うと、残念至極である。いつもエネルギーッシュに活躍を続けていらっしゃるお姿から、多大な影響を受けていたことを、今、しみじみと感じている。

---

尾崎喜光

社会言語科学会が発足する以前、日本言語学会の研究大会に付随する形で「社会言語学ワークショップ」という自由参加による研究集会を10年間継続し、最後の数年間は私が世話人を担当させていただいた。10年間で計18回の研究集会を開き、異なりで200人以上の参加者を得た。当学会員のうち言語学をバックグラウンドとする会員の中には、これに参加した方が少なからずいると思う。

徳川先生はこの研究集会に何度もご参加くださった。1997年6月にもたれた最後の第18回は、くしくも徳川先生が教鞭を執っておられた学習院大学での集会となった。徳川先生には会場校の窓口にもなっていただき、大きな教室をお借りして最後の研究集会を締めくくることができた。

会終了後、席を移して開かれた解散記念懇

親会には、言語学会の会場校としてお忙しいお立場にあったにもかかわらず徳川先生も御参加くださり、最後までなごやかにお付き合いくださいました。

その時いただいた暖かいねぎらいのお言葉や、背後から手をまわして軽く肩をたたいてくださる徳川先生独特のタッピングは、忘れがたいものがある。

まことに徳川先生は、言葉の研究者・教育者としてだけでなく、言葉の実践者としても達人であられたという思いを、今あらためて強くする。

言葉を通して徳川先生から愛を受けた人はどれほど多いことだろうか。

先生のご葬儀・告別式にはお手伝いの一人として参列させていただいたが、参列された方々の流された涙に徳川先生の注がれた愛の深さを見た。また、すすり泣きの声の多さに徳川先生の注がれた愛の広さを見た。

---

嗚呼、徳川さん

真田信治

徳川さんの逝去を耳にしたのは、お見舞いすべく上野駅のホームに立った折であった。信じ難いこの事態をどう受け止めればいいのか、混乱する頭の中でうろたえるほかなかった。

徳川さんにはじめてお会いしたのは一九六七年、僕が金沢大学の学部4年の時であった。爾来三十有余年、導かれつつ、後を追いつつ、今日に至っている。時に皮肉屋で、辛辣なところはあったが、僕にはいつも素直に胸襟を開いてくださっていたように思う。心優しく、そして本当に繊細な人であった。このところしばらく直接ゆっくり会う機会が少なく、時々「いらち」になっているような様子を、遠くから、実は少し心配もしつつ見てきた。こんなに早く別れなければならないことを徳川さんは気づいていたのだろうか。その気持ちを察するに疎く、何の手伝いもできなかつたことが、悔やんでも悔やみきれない。

僕たちはかけがえのない支えを失ってしまった。僕たちは、時がたつにつれ、徳川さんの永遠の不在についての実感をますます深めるだろう。徳川さんが去っていった空間が埋めようもない空虚であること、そして、その空虚が日々大きくなっていくことを思い知らされるだろう。

### 真ん中の大きな円を失って

杉戸清樹

上野寛永寺でのご葬儀から町屋の斎場にお送りしてのち時日を経ないいま、先生に申し上げる言葉をさがしあぐねます。

社会言語科学会の立ち上げにお力もお心も尽くされた先生のお姿は、私などには、社会言語科学会のシンボルマークと重なって映ります。機関誌の表紙やニュースレターの標題、あるいは大会のポスターや案内掲示などに掲げられる「九曜紋」がそれです。

このマークのご発案は徳川先生によります。中央に大きな円が位置し、それをとりまいて八つの円が配置されています。中央の円は一言で言えば「コミュニケーション」、それをめぐって様々な学問分野からの多くの研究者が集う学会を象徴するマークとして選ばれ提案されたと聞きます。

学会の学際性を的確にあらわす絶妙な選択だと感じ入った会員の一人として、しかし、先生をお送りしたいま、その図柄、とりわけ真ん中の大きな円は、まさしく先生の存在そのものとして映るのであります。

求心力。そして周囲への放射力。

学会にとって、さらにひろく学界にとって、文字通りかけがえの無い、そのような先生を失ったのだと痛切に思います。

心から、哀悼と惜別の言葉を捧げます。

日比谷潤子

徳川先生と初めてお話ししたのは、198

6年10月であった。当時私は米国で学位論文を書いていたが、一時帰国して言語学会で発表した。先生はその司会をして下さったのである。発表前にご挨拶すると、所属が二つあるのはなぜかとお尋ねになった。82年に上智の博士課程に入学したが翌年渡米したこと、学位取得迄帰らない心算だが日本の学籍も残してあること、を申し上げたところ、「今はやりの不倫のようなものですな」とおっしゃった。確かにその頃不倫は、いわゆる金妻の大当たりもあり、一種の社会現象だった。しかし、学会で初対面の相手に対して、二重学籍を不倫に喻えることはまずないのでないか。

米国に戻って数日後、学科長に呼ばれた。公募書類に添付されている和文の手紙に何が書いてあるのかという話だった。私はこの公募で現在の職を得て、87年3月に帰国した。先生にお会いする機会も増えたが「不倫の日比谷さん」とよく言われたものである。就職と同時に上智は退学していたが、米国の学籍はまだあったから、上智から慶應に乗り換えただけで不倫には違いないと思っていらしたのかもしれない。

同年6月には言語学会で社会言語学のシンポジウムがあり、先生と共に登壇した。席上どなたかが私のことを「Labov の日本支店」とおっしゃったことから、今度は「支店長」の名を賜った。懇親会等で「ちょっと、そこの支店長さん」とお呼びになるのである。

先生はこのようにたいそうおもしろい方だったが、天真爛漫、豪放磊落に見えながら、実は細やかな思いやりに溢れた方でもあった。97年4月に阪大出身の中西久実子さんが慶應の若き同僚となってから、私はこのことを深く認識するに至った。「色々お世話になって」と何度もおっしゃって、心底恐縮した。「不倫」だの「支店長」だのの時とは、お声の調子まで違った。「もうそのお話は」とその度に申し上げたが、それは最後になった5月1日迄、決して変わることがなかった。

## 第4回大会のご案内

期日 1999年7月24日(土)～25日(日)  
 場所 専修大学神田校舎

社会言語科学会の第4回大会が開かれます。15件の<研究発表>、言語獲得をめぐる<シンポジウム>、川田順造氏の<招待講演>など、充実したプログラムを準備しています。気軽な雰囲気の<懇親会>も開きます。

会員の皆さんはもとより、まだ会員でないたくさんの方のご参加をお待ちします。お声をかけ合って、ご参加ください。参加費は無料（予稿集代1,500円）です。

### プログラム

#### ———— 第1日 7月24日(土) ————

9:00 受付開始  
 10:00 開会

#### 〔研究発表1〕

司会：荻野綱男（東京都立大学）

10:00-10:25 ポーズが聞き手に与える影響

— 初級日本語学習者の発話に対する母語話者の評価 —

石崎晶子（お茶の水女子大学大学院）

10:25-10:50 怒りに関する身体メタファーの普遍性と相対性をめぐって：  
 日英中国語の比較からの考察

山口征孝（ジョージタウン大学大学院）

10:50-11:15 社会言語学的記述についての一考察：記述の「適切さ」と「正確さ」

若松美記子（一橋大学大学院）

11:15-11:30 休憩

11:30-11:55 官庁通知にみる曖昧な表現とその解釈：文部省通知の一考察

ケネラー佐智子（ジョージタウン大学／東京大学先端科学技術研究センター）

11:55-12:20 医療現場におけるコミュニケーション：

医師による命令発話行為の言語ストラテジー

植田栄子、長谷川万希子（東京大学大学院、東京都老人総合研究所）

12:20-12:45 「ねえ、昨日お台場あ？行って来たんだけど」

— 気になる口調「疑似疑問」に関する一考察 —

齊藤美紀（東京大学大学院）

12:45-14:30 休憩（理事・監事は理事会）

## &lt; 午後の部 : 303教室 (3階) &gt;

14:30-15:00 総会

15:00-15:15 休憩

15:15-17:15 招待講演

【演題】 「意味」が通じるということはどういうことか  
 — アフリカの無文字社会から考える

講演者 川田順造 (広島市立大学国際学部)

18:00-20:00 懇親会 (15階ホール)

## ———— 第2日 7月25日 (日) ————

9:00 受付開始

10:00 開会

## — &lt; 午前の部 &gt; A会場 (101教室) / B会場 (102教室) で同時進行 —

〔研究発表2 : A会場 (101教室)〕

司会 : 井出祥子 (日本女子大学)

10:00-10:25 Reflecting and creating social relations:

Status differentiation through speech representation in  
 narratives by the plaintiffs of Tokyo HIV lawsuits

Akira Satoh (小樽商科大学)

10:25-10:50 接続助詞ケドによる言いさし表現の談話展開機能

永田良太 (広島大学大学院)

10:50-11:05 休憩

11:05-11:30 Viewpoint and Speech Attitude (Arrogance or Modesty) in Japanese:  
 An Integrated Approach of Mental Space and Transitivity

KOZAI, Soichi (ハワイ大学大学院)

11:30-11:55 日本語に見られる対称詞のジェンダー・カテゴリー

アンドリュー・パーク, 上原聰 (東北大学大学院, 東北大学)

〔研究発表3 : B会場 (102教室)〕

司会 : 橋田浩一 (電子技術総合研究所)

10:00-10:25 台湾における言語使用変化

— 「年齢×領域」を観点とした考察 —

簡 月真 (大阪大学大学院)

10:25-10:50 発話機能からみた日本語と韓国語の依頼の構造とストラテジー

— 談話完成テストの結果から —

嚴 廷美 (東京大学大学院)

10:50-11:05 休憩

11:05-11:30 日中大学生の敬語行動の対照研究 — 依頼表現を中心に —

梁 長歳 (神戸市外国語大学大学院)

11:30-11:55 日本語「気」の慣用句とドイツ語対応表現の対照比較

— <憂慮する>という意味場に属するものについて —

吉羽里恵（獨協大学大学院）

11:55-12:20 書きことばによる「接触場面」における母語話者側の言語的調整

— 「フォリナー・ライティング」の概念形成に向けて —

鄭 恵允（筑波大学大学院）

※氏名の表記は発表者の申請に従っています。

12:20-13:30 休憩

————— < 午後の部 : 303教室(3階) > —————

13:30-16:30 シンポジウム

【テーマ】 言語獲得をめぐって：子どもからロボットまで

司会： 白井英俊（中京大学）

問題提起： 開一夫（電子技術総合研究所）

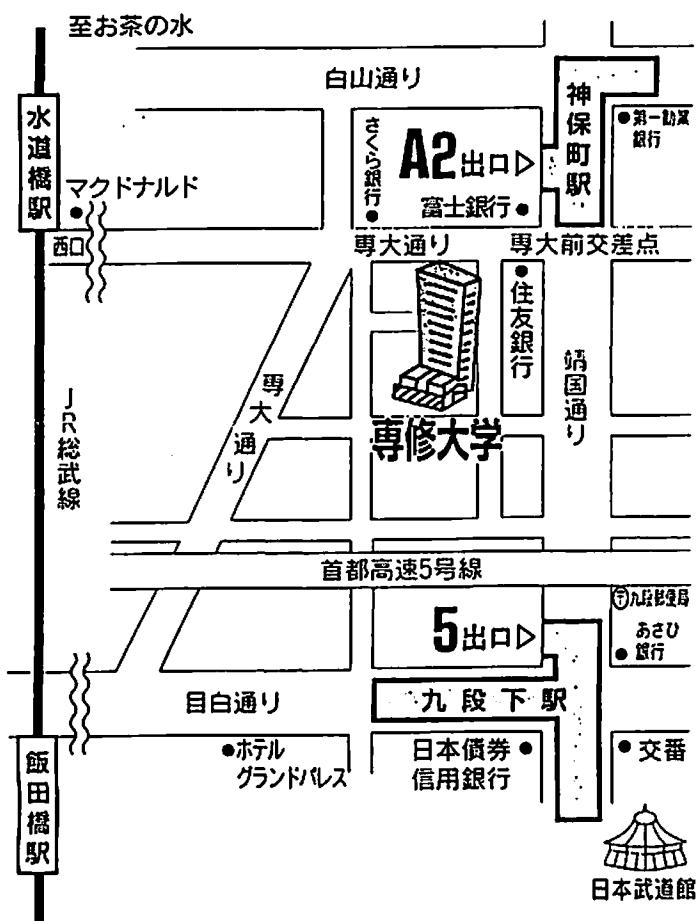
小林春美（共立女子大）

白井英俊（中京大学）

コメンテーター：波多野謙余夫（慶應大学）

16:30 閉会

### 専修大学交通案内図(神田校舎)



#### 所在

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町 3-8

#### 交通

○神保町駅下車「A 2 出入口」より徒歩 3 分

[都営三田線・都営新宿線・半蔵門線利用]

○九段下駅下車「5 出入口」より徒歩 3 分

[都営新宿線・半蔵門線・東西線利用]

○水道橋駅より徒歩 7 分

[JR中央線利用]

#### ●お願い●

駐車場はありませんので、車でのご参会は  
ご遠慮ください。

## 第5回大会のお知らせ

第3回大会は1月でしたが、第5回大会は約2ヶ月繰り下がになります。  
ご予定に組み入れて、多数ご参加ください。

期日 2000年3月25日(土)～26日(日)

場所 東京都立大学

所在 〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1

交通 京王相模原線・南大沢駅より徒歩5分

開催校・連絡先電話 0426-77-2135(国文研究室)

## 研究発表の募集

上記の第5回大会の研究発表を以下の要領で募集します。

**[発表資格]** 申込の時点で社会言語科学会の会員であること（申込と同時に入会も可。連名発表の場合、少なくとも筆頭発表者、口頭発表者は本学会員でなければならない）。

**[発表内容]** 本学会の趣旨に沿った分野の内容で未発表のもの。（社会言語学、社会心理学、社会学、心理学、コミュニケーション論、言語学、言語人類学、文化人類学、語用論、日本語教育、英語教育、情報科学、認知科学、人工知能研究、その他の分野で、ことばを社会や文化、認知との関係でとらえた研究）

**[発表時間]** 原則として1件あたり25分（質疑応答も含む=予定）。（ただし報告本数を考慮し、時間調整を行う場合もある）

**[応募要領]** (1)発表題目、(2)氏名、(3)住所、(4)連絡先電話番号/Fax番号、  
(5)E-mailアドレス（利用していない場合は不要）、(6)所属、(7)職名、  
(8)発表要旨1,200字程度

を記載したEメールを下記アドレスに送付してください。なお、Eメールを原則としますが、郵送でも受け付けます。その場合、上記(1)～(8)の項目をなるべくA4用紙1枚に収めるようご記載ください。

※要旨の言語は日本語を原則としますが、英語でも受け付けます。

**[応募先]** jasstaik@kc4.so-net.ne.jp  
〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1  
日本女子大学文学部英文学科井出研究室気付  
社会言語科学会研究大会委員会  
tel. 03-3943-3131(内線7323)

**[申込締切]** 1999年12月10日(金)

**[予稿集]** 採否の結果は1月初旬までに応募者に連絡します。発表者には、発表に先だって予稿集用の原稿の執筆をお願いします(A4で6枚以内、締め切り期限2月10日=予定)。なお、応募の採否、発表順序などについては研究大会委員会にご一任願います。

※第4回大会では、18件の発表応募があり、そのうち15件を採択させていただきました。

## 特集論文の募集のお知らせ

学会誌編集委員会では、「特集・日本語と言語接触」の論文を募集しています。

特集中に投稿された論文は、通常の投稿論文と同じく、査読を経て掲載が決定されます。原稿の書き方、投稿のしかた、投稿先などは、通常の論文の場合と同じです。投稿に際し、「特集」のための論文であることを明記してください。投稿規定・執筆要項は学会誌の表紙裏ページをご覧ください。

論文投稿の締切: 2000年1月31日

掲載号の発行: 2000年9月(予定)

### 特集・日本語と言語接触

日本語は「島国の孤立した言語」と捕えがちであるが、その歴史は、見方によっては言語接触の繰り返しとでも言えそうである。この特集では、過去または現在、日本語と他の言語との間で起きた（起きている）言語接触の実態を追究する。

日本語という言語そのものも複数の言語体系との接触によって誕生したという様々な説がある。以降、中国、朝鮮半島、アイヌなどとの接触によって、語彙が借用された。室町時代には、周辺民族だけではなく、日本人は西洋の様々な言語を使う人と接触し、二言語使用、借用語、語学學習、通訳といった言語接触現象が生じた。近世には、日本人の海外移住がはじまり、マニラやシャムなど東南アジア各地で日本人町の出現により、他言語の話者との接触が起きた。

近代のテーマとして、横浜などの開港で使われたピジン・ジャパニーズ、アイヌ人や小笠原先住民の言語的同

化と二言語生活、日本人移民と言語接触（ハワイ、ブラジルなど）、植民地の先住民の二言語使用や日本人入植者との間の言語接触、終戦直後に日本人と占領軍の米兵との間に使われたパンブー・イングリッシュなどが考えられる。

現在は、永住型在日外国人（朝鮮・韓国人、華僑など）、定住難民、外国人労働者の言語教育・母語保持・二重言語生活、残留孤児や帰国子女の言語適応など新たな言語接触現象が生じている。

言語行動の現象としての言語接触（コード切り替えなど）、あるいは言語接触の歴史的過程（労働移民など）以外にも、言語接触の結果として生じた言語事象（ピジンや借用語）など、様々な観点からの研究論文が期待される。ただし、「社会言語科学」という名にふさわしいように、「接觸するのは言語そのものではなくて、言語を使う人間である」という立場から書かれており、またそれを読者に考えさせる研究論文が望ましい。

### 記録 社会言語科学会 春のワークショップ'99

- 春のワークショップが去る3月下旬に中伊豆高原で開かれました。
- 4人の講師を含め30数名が参加し、3泊4日の日程で、「言語的データの<実験的な収集方法>の多様性」というテーマで講義と実習の形式で議論しました。
- 詳しい内容は『社会言語科学』第1巻第2号（近日発行予定）をご覧ください。
- 以下に、参加された会員の感想とアンケート結果を掲載します。

#### 〈感想〉 入会、そして春のワークショップ'99

佐伯晴子

（東京S.P.（模擬患者）研究会事務局）

外国语大学を卒業したということは、自分の人生にはあまり関係の無いことだ、と思いつづけて20年近く経った頃、たまたま通りかかった「第一回社会言語科学会」の文字が遠くに置き忘れた「言葉の学問」への興味をふ

たたひ呼び覚ましてくれた。すでに、医療におけるコミュニケーション教育の仕事を開始していたが、医療者が患者の言葉を聴き、また患者に言葉を伝えることに、主に患者の権利や心理学やカウンセリングなどの切り口を使っていた。だが言語は、忘れていたわけではないが、同じ日本人どうし日本語だからさほど大きな問題ではないような気がしていた。

[次頁へ続く]

ところが、社会言語科学会の発足に徳川会長が「研究成果を社会に還元し、社会から課題をもらうような学会に」との趣旨で挨拶された。さらに、記念講演で佐伯伸教授が話されたのが、なんと医療の現場の患者さんのコミュニケーション内容と病気の受容についてのものであった。まさに、これが自分が求めていた学会かもしれない、身震いする程の興奮を覚えた。言語界での所属もなく、まったくの素人が興味だけで入会を許された。

素人の怖いもの知らずで、社会心理学関係の夏'98に引き続いて、言語的データの収集に関する春'99のワークショップに参加させていただいた。いろいろな分野か

ら参加を、との文字に、ろくな知識もない後ろめたさをごまかして、野次馬を通している。馬の耳に念佛だが、人間万事塞翁が馬ということもあるだろう、などと勝手に考え、自分のテーマに関係しそうなところは耳を立て鼻息も少しばかり荒くしていた。

それにしても、日本晴れという言葉を絵にしたらこれだ、という見事な富士が挙めたのは、新参者にも未来への勇気と希望を抱かせてくださった講師の先生方、事務局の先生方、そしていつも私のギャグに笑ってくださる参加者の皆様のお蔭だと感謝申し上げます。

### 〈参加者へのアンケート結果から〉

#### ○宿泊しない講習会・セミナーを企画することについて

- ・回答 19 肯定的: 17 否定的: 2
- ・希望するテーマ・内容  
統計 フィールドワーク 質問紙の作り方  
会話分析 など

#### ○学会の活動についての希望・意見

- ・メーリングリストを
- ・関西方面でのネットワーク作りを

※事業委員会では日帰りセミナー(統計など)の実施を検討中です。

### 夏のワークショップ'99の予告

次のような案で、もつか企画を固めつつあります。

決定し次第、あらためてご案内を差し上げますので、どうぞ多数ご参加ください。

テーマ： 「自然な」談話例を作る

内 容： 伝達行動分析に「作例」を利用する可能性はないか、日本語教育の場で提示する「自然な」例とは、会話を記録する映像の問題点は など。

発題を受けて、シナリオを作り、実際に演じ、映像化して分析を行います。

日 時： 99年8月22日～27日の間の3泊4日 場 所： 中伊豆高原ホテル

ニュースレター担当： 学会事業委員会(E-mail: jassjig@cf6.so-net.ne.jp)

## ～SPSS で極める：Get a Complete Data Solution with SPSS～

### SPSS 9.0J for Windows(日本語版) 新登場!!

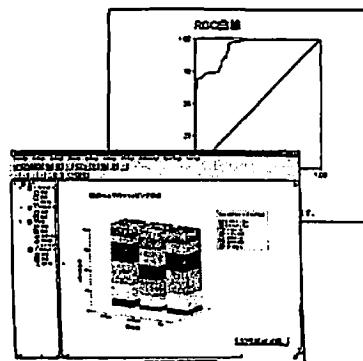
—さらに強力になったモーリング＆レポートイング機能で、分析結果の効果的なプレゼンテーションを実現—

#### ■SPSS が新しく提案する「Report OLAP」機能～

- ◆テーブル復からダイレクトにグラフを作成し、分析結果のビジュアル化を瞬時に実行そのためデータ間の関連を見つけ出す時間を大幅に節約。

#### ■最新の手法も加わり、100種以上の統計手法を装備～

- ◆クロス集計に「Cochran」と「Mantel-Haenszel」の層別統計量が新規に追加され、カテゴリカル・データの分析がさらに緻密に実行。
- ◆SPSS Regression Models(旧名称: Professional Statistics)に多項ロジスティック回帰分析が追加。
- ◆SPSS Advanced Models(旧名称: Advanced Statistics)の GLM(一般線形モデル)に反復測定での多重比較を追加。「その後の検定」ですべての時点の平均値による被験者間での効果比較が可能。
- ◆検定の正確さを事前に調べることができる ROC 曲線が追加。



エス・ピー・エス・エス株式会社 SPSS Japan Inc.

〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-1-39 恵比寿プライムスクエアタワー10F

TEL: 03-5466-5511 FAX: 03-5466-5621 e-mail: sales@spss.co.jp

※詳しくは、こちらの URL までアクセスして下さい。 <http://www.spss.co.jp>